

「小さな拠点」づくり全国フォーラム



多様な人々の取組を支える中間支援とは ～中間支援の実践者からの提言～



2026年 3月 2日(月)
14:00-16:30

参加費
無料

会場 オンライン開催（定員500名程度）
接続先URLは、当日昼までに申込者にご連絡

申込 専用フォーム
<https://forms.office.com/r/Auf7qHkRqs>
〆切 2月27日（金）17:00



中間支援の役割とは？

多様な主体とのつながり方とは？

中間支援の担い手像は？

小さな拠点・地域運営組織に関心のある方ならどなたでもご参加いただけます！

中間支援者は
何をどこまで支援するのか
わからない

多様な人々に
関わりを広げるには
どうしたら良いか

どのような立場で
支援するべきなのか
わからない

中間支援を担える
人材がない

主催

内閣府地方創生推進事務局

【開催趣旨】

将来にわたり地域住民が暮らし続けることができるよう、必要な生活サービスの維持・確保、仕事・収入の確保、交流づくりなど、全国各地で「小さな拠点」など地域運営組織の形成・運営が行われ、さまざまな取組が行われています。「小さな拠点」は地方創生の一環としてスタートして10年が経ちますが、人口減少や高齢化など地域の変化に伴って取組が停滞する地域などもあります。

そこで今年度の全国フォーラムは、地域の多様な人々の連携を通じた地域自治のあり方に着目し、地域運営組織や中山間集落への支援の実践者から、地域支援のあり方、地域運営組織やその他の担い手との連携協働の進め方などについて学び、実践につなげていくことを目的として開催します。

【プログラム】

1. 話題提供

高崎経済大学地域政策学部 教授 櫻井常矢氏

現在、総務省地域力創造アドバイザー、総務省RMO研究会委員、2023～24年度トヨタ財団助成PG「中間支援機能に関する研究会」代表等を務める。



2. トークセッション

～地域を支える中間支援の現場から考える～

事例
発表者

阪南市社会福祉協議会 猪俣健一氏（大阪府阪南市）

1981年設立。少子高齢化が進むなか、基本的人権の尊重を軸に、公民協働、住民自治・市民参画による「福祉のまちづくり」に取り組む。地域福祉の活動を起点に、食を通じたつながりづくり・居場所づくり事業

「子ども食堂」、農業・漁業でつながる「農福連携」「漁福連携」の実践など、多分野・多世代が支えあうネットワークづくり、住民主体の地域づくりの身近な伴走者として活動している。日本地域福祉学会「第21回地域福祉優秀実践賞」を受賞。



里山くらしLABO 池田水穂子氏（静岡県静岡市）

2015年設立。静岡県静岡市の中山間地域の子育て支援や移住促進支援をきっかけに、人口減少と高齢化に対応するコミュニティづくりのサポートをはじめる。当事者でも行政でもない、第三者の視点による自治会をはじめとする地縁団体の支援を主とする。地域課題の数値化・可視化、地域活動の目的の再確認や、組織や役職、行事の見直し、デジタル化など、時代の変化に対応できるしなやかな組織づくりを応援する。平成30年、第8回地域再生大賞特別賞を受賞。



モデレーター

高崎経済大学地域政策学部 教授 櫻井常矢氏

問い合わせ先

株式会社アル・ピー・アイ
地域運営組織等調査グループ

(担当：小泉、景浦、岩崎、矢野)

TEL : 03-5212-3411 (平日10時～17時)

MAIL : kyoten@rpi.co.jp